



NO. 208

2010. 10. 15.

社会福祉法人 大阪市知的障害者育成会
(別名 大阪市手をつなぐ親の会)

<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>

大阪市天王寺区東高津町12-10

大阪市立社会福祉センターB1F

発行責任者 笹野井 庸夫

TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623

その人らしい暮らしを実現するために
～大阪市の施策と市育成会の取り組みについて
PART 3～

10月号では、港育成園の取り組みについて紹介します。

港育成園は定員50名の通所更生施設です。また、日中一時支援事業、相談支援事業・障害児等療育支援事業、移動支援事業・居宅介護事業を行っています。

港エリアの特色として、相談支援事業・障害児等療育支援事業、移動支援事業・居宅介護事業については、港第二育成園の西部地域就労支援センター、地域生活支援センターの生活支援事業等とともに施設を離れ、JR弁天町駅前に「ぽると」を構え、各事業の連携により、より効率的に地域生活を送られている方のニーズに対応し、その中で新たな資源の開発や支援のためのネットワーク作りを目指しています。

大阪市障害者支援計画の中でも、『相談、情報提供体制の充実』が挙げられています。「ぽると」にすべての相談に答えられるだけのサービスメニューがそろっているわけではありませんので、相談の内容によって、必要なサービス機関と連絡をとりあって協力しながら、相談に答えられるよう努めています。

今回は、日中活動の場としての港育成園の取り組みと、地域生活を送られている人を支援する『ぽると』での相談支援事業の様子を掲載したいと思います。

港育成園の取り組みについて

園長代理 長谷 弥朋

港育成園では社会人(大人)としての生活が意識できるよう『仕事(作業活動)』に取り組んでいます。日々の『仕事』を通じて、メリハリのある生活が送れるように支援をしています。利用者一人ひとりの

個性や特性に応じて作業提供を行うことを意識し、工程を細かく分ける・わかりやすいようなヒントを提示するなど、利用者一人ひとりが取り組みやすく、意欲が持てるような配慮を行っています。

仕事に取り組む中で、今求められていることを理解する・他者と協力をする・(出来た事・出来なかった事を含めた)報告をするなど

の経験を重ねてもらっています。また、取り組みを行う中で良い評価を意識するようにもしています。それらを続けることで、(少しずつでも)課題に取り組めるように・また今まで出来なかった事が、少しずつ出来るように、(少し)手伝ってもらいながらも、自助具を使いながらも“(自分で)できた”と思えるような、また、利用者一人ひとりの自信や達成感へ繋ぐことが出来るような支援を心がけていると思っています。

また、グループ活動という名の外出活動を年間5回程度行っています。集団を意識しながらも、利用者それぞれの課題や特性に応じることのできるぐらいの小集団で工場見学や海遊館・バイキングなど、楽しみとなる活動として位置づけています。他には、観光バスを使っての一泊旅行・年度末には利用者一人ひとりが一年間で一番頑張ったことを称えあいながら、ホテルでの食事を楽しむ慰労会をなどがあり

ます。それらの活動を通じて、交通機関の利用の仕方やマナーの学習・お金の使い方など、生活経験の拡大を目指しています。日々、取



り組んでいる作業をはなれ、利用者一人ひとりの特性や個性に合わせた楽しい取り組みは、気分転換や日々の作業活動への励みにもなっているようです。